

芥川だより

現像なら、芥川商店街入り口の

発行日 *** 2008年1月20日 e-mail: akutagawa_dayori@yahoo.co.jp

芥川だよりの定期購読をご希望の方にはお送りします。お気軽にお申し付けください

編集発行人 下村嘉明

発行所

着物から服を仕立てます



☆着物から服へ・リフォームオーダー☆

☆ポイントカードを初めて作りました☆

高槻市芥川町2-14-3 TEL 072-681-8870



芥川の写真屋さん

雪遊び



夜更けに雪が舞いはじめ、音もなくしんと降りつづくとき、丹波の山は白く衣替えをする。私は子どものころ、夜に雪が降りはじめると、そのまま降りつづいてたくさん積もれ、と念じて床についたものだ。◆朝起きて一番、窓越しに外を見る。雪が膝下まで積もっている。うれしさが一気に込みあげる。もうソリ遊びのことで頭がいっぱいなのだ。早く遊びに行きたくて仕方がない。朝飯を食べる時間も惜しい。大急ぎでかき込んで、外へ飛び出した。◆遊び場は裏山の新しい山道だ。ソリを小脇に抱えて急ぐ。この山道は、傾斜といい長さといい、ソリ遊びには絶好のコースなのだ。新雪を踏み固めてコースをつくっていると、二人、三人とソリをもって遊び仲間が集まってくる。こんな雪の日に思いつく遊びは一つしかない。ソリは、それぞれ自分で工夫してつくった自慢の装備だ。私のソリは、前に小さな舵取り用のソリが取り付けられている。◆コースができあがると、滑る順番をジャンケンで決める。一番手は、雄叫びのような奇声を発して、勢いよく滑っていく。勝ったものから次々に、大声で叫んだり大笑いしながら滑っていく。◆何度もくり返し滑るにしたがって、コースの雪が固くなり、ツルツルになる。次第にソリの制動が効かなくなって、互いにぶつかったり、転んだりする。それも楽しいのだ。◆途中急なカーブがある。制御できないほどのスピードが出るようになって、曲がりきれなくなった私は大きくコースを外れて、斜面を真っ逆さまに転がり落ちた。止まったところで仰向けになり、なんだかおかしくて大きな口を開けて笑いだした。スリルもソリ遊びの魅力の一つだ。友だちもみなこのカーブを曲がりきれずに、転がり落ちる。雪がクッションになって、怪我をするものはいない。◆雪まみれになって遊んでいると、正午を知らせるサイレンが鳴った。帰宅の合図だ。家に帰り、濡れた服のまま炬燵にもぐる。身体中から湯気が立ちのぼってきた。母が縫い物の手を休めて、茶碗蒸しをつくってくれる。毎日、毎日「何をして遊ぼうか…」、ただそれだけを思案して生きていた。

芥川商店街に 新しく魅力的なお店が 誕生しました

新店舗の
お知らせ

- *cafe&gallery 登美屋 1月13日オープン 10:00~18:00 定休日木曜 (芥川2-9-11 ☎685-0362)
 オナーの手作りケーキが美味しいです♪ ケーキセット ¥500~
- *びあ英会話スクール 1月8日オープン (芥川2-14-4 ☎682-6667 フリーダイヤル 0120-89-5568)
 詳しくは [びあ英会話スクール](#) で検索♪ 無料体験レッスン 実地中

深奥幽玄手談の交わり

囲碁で豊かな人生を!



日本棋院高槻支部

芥川囲碁サロン (株)入谷商会経営

日本棋院棋士谷村義行八段による
 大盤解説毎月第二日曜日午後2:30より
 指導碁毎月第二日曜日午後4:00より

高槻市芥川町2-10-11(芥川商店街)

TEL・FAX 072-682-0403(代)

なんともうれしかったお正月

ゆくとし、くるとしから、明けましておめでとう。この挨拶の気持ちはいつまでも忘れたくないもの。

お正月の風景が変わりました。風揚げも、羽根つきも楽しみのひとつ、百人一首の箱をかかえて、三が日毎夜の如く、会場へゆきました。読み手は決まり、双方向かい合って、一心不乱、お手つき、上の句、下の句、みんなベテランばかり。

自然に太い絆で結ばれていたし、何か好きな事を通じた近所付き合いだったと思います。いちばん大切な、タテヨコの関係は「ニッポンのお正月から」、いいところから実行して見ては、いかがでしょうか。

印刷の年賀状でも、ひとことふたこと、なつかしい手書きの文字がそえられていると、そのお方と話をしているようで、うれしいものです。あの頃が、まだまだ懐かしいです。

私の好きな百人一首

「あらざらむ

この世のほかの思い出に

いまひとたびの

あうこともがな」

(何を連想されますか？ 連想ゲームです)

新老人論から

七十代は「しよぼけないでイキキキとどこへでも出て行って自分を鍛える」

私はどうなる。

八十代は「今からでも遅くはない。八十代の気持ちは四十代」とはいえなくても、どんだん心の年齢が若くなってくる。自分は、おぼあちゃん」だという印象を、自分にも他人にも、持たせないようにしたい。前向きさが大切。長く生きると、いろんな思い出が増えて楽しい。思い出を考えるだけで楽しい。

年をとったら何もできなくなるけど、昔からの思い出を浮かべるだけでも退屈しない。そこに、前向きの明るい世界が待っていてくれればいいが……。新しい年に向かって夢をえがこう。



迷うことなけれ

出会いがしらに、

「お早う」

「今日は」

「お元氣ですか」

いろんな言葉が交わされてきた。すかさず、

「おかげさまで」

「どこへ行きなはるのや」

と返ってくる。これが大人の別世界で展開していったもの。

特別にお世話になっっている人でなくても自然に流れてくる言葉であった。でも今は変わってきた。子供にす

ら声をかけても、表情が固く、口をとざしたまま。いらぬおせっかいかいと、知らない人にはだまっっているのだという表情が出ている。

なんと情けない世の中になったのだろうか。何かしら、子供の表情、大人の表情が、一日一日、どこかへ飛んでゆきそうに感じるのは私だけの取り越し苦労なのか。

環境を見つめて、もっと大切なものは「ふれ合い」、こんなことを考えるのは無に等しいのか。

回り道であっても一步一步、歩んで進めてゆきたい。

小皿

此の方へ来て驚いたこと。小皿に残った醤油を飯茶碗にうつして、お茶をいれて飲んだ義父を見て「ああ、こんな始末するのか」と。何のことはない。大酒のみ。

姑は違う。もったいないとそのまま洗わずに置いて、次のご飯の時には、そこへ又少し足して漬物を入れて食べていた。私は、全部捨てて洗うのかと思っていた。

すべてのものがそうとは言えない。嫁さん、嫁はん、良い嫁はんとは言われた覚えがない。

小皿を「おてしよう」というのは、京都弁か関西弁か、みんな知らんという。

「どっちでもいいじゃないか」と旦那は言う。「そんな事に、こだわっていたら何も食べられへん」という。

お寿司を「おすもじ」。しゃもじを「おしゃも」。まんじゅうを「おまん」などがある。

おまめさん、おいもさんなどというのは関西だけで、どこから出た言葉だろう。

調べてみたら「お手塩」で、塩をのせる小さい皿」ということ。

なまって「おてしよう」、小皿のことらしい。

新たな生活(その1)

昭和十八年九月二十八日は、私にとつ

て忘れられない日です。入營する人たちが淡々と見送りの家族に別れを告げて、兵舎の中に消えていきました。私は一人ポツンと、彼の消えた方向に視線を向けたままたずんでいました。嫁いだ翌日に夫が入隊して、私は一人ぼっち残されたような気持ちになって、寂しさがこみあげてきたのです。

でも、いまはもう私は軍人の妻なのだ、しっかりしなくては、と我を励まして、年老いた両親の待つ茨木の家へ急ぎました。草深い田んぼの中を通り我が家へと帰ると、父も母も、心配そうに待っていてくれました。きょう四人の息子のうち二人が兵隊にとられたのです。寂しくな

いはずがありません。それでも、私が帰ると、嬉しそうな顔で迎えてくださり、「どうぞ、よろしくたのみます」と笑顔を見せてくれました。

彼の兄弟は、長兄は高等学校の教師、次男の彼は大阪府庁勤め、三男は東京で商社マン、四男は高校生で来年は大学進学という男ばかりの家です。「お寺を継ぐ息子を頼りにしてきたけれど、このたび息子が入營したので、娘のあなたが頼り」と私の手を取り、「どうぞ、よろしく」といわれ、「しばらく大阪にいらしてください

さるわね」と念を押されました。私は、「まったく寺のことはわかりませんし、田舎の暮らしもわかりません。よろしくご指導ください」と頭を下げました。

洋服に着替えて台所に行き、その広さにびっくり。大きなお釜が並んでいます。内井戸と外井戸があつて、内井戸の横には瓶が並べられていました。内井戸の水は金気の水で鉄分を多く含んでいるので、こし器を通すように教えられました。ポンプのついている外井戸の水は川からの取り水で、風呂や洗濯用です。茶碗を洗ったり、米をといだり、口に入る水はこし水を使うように注意されました。一

番大変なのは、風呂の水汲みです。バケツに五十杯は入れなければなりません。十月に入って、村の役場に勤めている父が帰宅されたとき、「明日二日、軍刀を兵舎横の義姉の家へ持ってきてほしい」という旨の電話があり、私と三男の弟が届けらるることになりました。「いよいよ外地行きやな」との事。茜色の風呂敷包みを重そうに持ってきて下さった。私は緊張して、ドキドキしていました。疲れた私は夕食を頂いてから、「明日はまたよろしくお願いします」と早めに休ませてもらいました。

二日は午後二時ごろ家を出ました。大阪市内を歩くのは初めてです。弟は荷物を持って、義姉の家へ案内してくれまし

た。五時ごろ軍服姿の彼があらわれまし

た。五時ごろ軍服姿の彼があらわれまし

た。「ありがとう」と握手をして、「外地に向かうのは五日の夕方。暗くなったところに門を出るので、また五日に来てくれるか？」といわれたので、「六時では暗いので、五時半頃に来ます」と返事をして別れました。

父は「こんな時に寺にお金があれば田舎を手に入れることができるのだが、あなた持参金はありますか？」と私に尋ねるので、ちようど荷物が届いたところで、タンスの中を調べると、ふくさに包んだ五百円が入っていました。そのお金を父に差し出しました。「これはありがたい。しかし、田んぼは自分でつくらねばならないからねえ」といわれるので、「何とか私がつくってみます」と申し出ました。私の持参金で田んぼ五反をかう

た。五時ごろ軍服姿の彼があらわれまし

た。五時ごろ軍服姿の彼があらわれまし

た。五時ごろ軍服姿の彼があらわれまし

た。五時ごろ軍服姿の彼があらわれまし

見えざる悪魔 有機リン(二)

山彦海彦

一昨年、群馬県はラジコンヘリで有機リン農薬を散布することを規制しました。ラジコンヘリは搭載可能量が八リットルぐらいと少ないために通常の一〇〇倍もの濃度で散布されます。群馬県前橋市で医院を営む青山美子医師はその被害を県に報告し、長年規制を求めていました。

群馬県のような四方を山に囲まれた盆地状の地形では、散布された農薬は空気より少し重い層となつて一週間以上も大気下層に漂い続けることが、青山医師に協力した横浜国大の調査で分かりました。

先生のある患者が、一キロ以上離れたところで撤かれた農薬のために喘息による気管収縮になり、医院の玄関先で事切れたそうです。先生は講演でラジコンヘリの散布風景をスライドで紹介したことがあるのですが、そのラジコンヘリを操作していた若い男性は二年後に精神病院に入院してしまいました。

田畑だけとは限りません。ある造園業を営む人は、庭仕事に使う農薬を玄関に置いていたばかりに化学物質が室内に充滿して、本人は精神病、妻は膠

原病になり、家庭崩壊しました。

ある他県の大企業社長夫人は長年膠原病に苦しみました。先生の指摘で毎月行う庭の手入れで虫の消毒をやめたところ、膠原病は治りました。

群馬県知事に嘆願書を出して規制のきっかけを作った女性は、家の隣に新設された洗車機に使用されるワックスに含まれる有機リン系化学物質に冒されて重度の化学物質過敏症になった人です。一時期は幻覚も起きて、分裂病と誤診されていました。(化学物質問題市民研究会のHPに詳しい資料がございます)

皆さんはご存じでしょうか、畳の防虫シートや床のワックス、更に酷いのは床下のシロアリ剤は有機リン系化学物質なのです。

また、ビユアな樹脂では固すぎるプラスチックを柔らかくするのは同じく有機リンの可塑剤なのです。その様なプラスチックを使用した電気ストープで化学物質過敏症になり、裁判を起こした人もいます。

化学物質過敏症研究の第一人者、北里研究所病院の石川哲名誉教授のご努力下、シロアリ剤のクロルピリフォスはかろうじて三年前に規制されました。

石川氏は本来眼科がご専門です。氏が有機リン農薬にかかわるようになったのは、長野県の佐久地方の子供達に

視力低下の奇病が発生し、その研究からヘリコプターによる有機リン農薬散布が原因であったことを突き止めたことからはじまります。眼球運動の検査から自律神経の異常をとらえる科学的な検査方法を開発した医学者でもあります。揮発性化学物質や微、埃などを極力減らしたクリーンルームでごく僅かな気体を嗅がせて行われます。驚くべきことに眼球運動異常になる濃度はナノ単位、一〇億分の一ものうすさなのです。

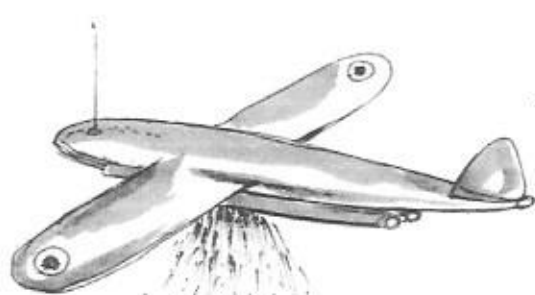
石川氏や青山医師そして世界の数少ない医学者の研究で、有機リン農薬によつて脳神経の伝達物質を代謝するセリン加水分解酵素群が阻害されることが判明はじめています。

そもそも有機リン農薬は虫の自律神経系伝達物質アセチルコリンの分解酵素(コリンエステラーゼ)を阻害することによつて虫が呼吸できなくすることで殺します。人間にも同じアセチルコリンの自律神経系があります。

松本サリン事件・地下鉄サリン事件で使われた最強の有機リン「サリン」で死亡された方は自律神経系の心肺停止による脳の酸素不足の脳死が主な死因です。死亡されなかった方のなかには化学物質過敏症になった人もいます。

コリンエステラーゼはセリン加水分解酵素群の一つにすぎません。他に六つもの脳神経系の酵素があり、有機リンによつて阻害されてしまうのです。脳の活動「精神」に異常が出ないはずがありません。

しかしながら、いくら有機リン農薬に暴露されても影響が出ない人がいます。それはアルコールの耐性に大きな個人差があるのと同じことで説明できます。斗酒なお辞せずの人もおれば、コップ一杯のビールで酔って寝込む人がいるように、個人個人その分解酵素の働きは遺伝的に一〇倍以上の個人差があるのです。我々は、有機リン農薬はそんなに害はないから大丈夫だと言わんばかりに、下戸の人にウイスキーを無理強いしているのと同じことを、



しているのです。弱い人から脳や体を冒されて病気になるります。

悲しいことに、群馬県知事に陳情された女性のお子様は母親と同じ化学物質過敏症になりました。最後の1撃は久しぶりに登校できた日に起こりました。新築された体育館に入った途端に倒れ込みました。床のポリウレタン塗装が原因だったのです。彼は一週間眠り続けました。それまでは剣道が好きで、な礼儀正しい穏やかな子供でしたが、意識が戻った彼は荒々しい攻撃的な性格に変化していました。梁瀬医師の警告にもかかわらず六〇年前と同じ悲劇が何の罪のない母子に繰り返されたのです。

青山先生はお孫さんが生まれたとき県立病院の職員と大げんかをしたそうです。先生が病院を訪れたとき、なんとお孫さんが入っている新生児室がまさに消毒されようとしていました。消毒とは聞こえが良いですが、実際は有機リン農薬スミチオンが使用されようとしていたのです。県立の大きな病院ですよ！大病院の医療関係者であっても、化学物質の危険性に対する意識レベルはそれほど低いのです。先生はまたそのような物質で院内を消毒しているのなら、そこで働く医師や看護婦に医療ミスが起きてもおかしくないと警告されています。

私が参加する化学物質過敏症のメーリングリストで、大阪のリフォーム業者から、北陸でシックハウスによる化学物質過敏症で夫の暴力が起こり、家庭崩壊した例が報告されました。有機リンの恐るべき影は密かに拡がっています。

住居内にそのような化学物質が使用されると気密性から拡散せずに、人間はその毒性物質を長い間呼吸し続け、体内に取り込むこととなります。これが昨今話題になるシックハウス問題の本質なのです。五〇年ほど前に世に初めて室内空気質の危険性を警告した人こそ化学物質過敏症発見者、ゼロン・G・ランドルフ医師でした。

「携帯エッセイ」

母が死んだ。優しい母だった。子供の為なら自分を犠牲にする事やわなかった。命をくれ、体をくれ、愛をくれた母さん。有難う。(龍)

貴方の思いをお寄せください。

一八〇～二五〇文字位で

貴方の心のつぶやきをお送り下さい

高槻特産

摂津峡漬

摂津峡漬Rの白瓜は、なにわの伝統野菜に指定されました。芥川の清流が摂津峡から平野部に流れ込むあたりがこの瓜の産地です。塩と上質の酒粕のみの伝統製法の珍しい(甘くない)奈良漬であります。

古くは本間秀吉が、山崎の合戦の折に食して「美味である」と申した由、又、徳川家康が大阪夏の陣の得途、西国街道で「この芥川はういやつじゃ」と誉めて以来、幕府献上品になったと言われていいます。かきかとした歯ざわりと酒粕の豊醇な旨味がよく調和して「お茶の友、お酒の友」として昔も今も喜ばれております

- 地元高槻の特産品ですから、お土産に最適です。
- 保存しても風味が変わりませんから、備蓄や連物に最適です。
- 真空パック・1舟箱入り、千円位からとお手頃です。角タル入りも重宝です。
- ポイントカード2倍券セール(下のサービス券をご持参下さい)

ポイント・サービス券⑱茶

茶舗と共通です



営/10時～18時 休/ 日曜、祝日
TEL (072) 682-0310
FAX (072) 682-6915

これで生きて帰れる——

いままでの重苦しい不安が一瞬に溶けると同時に、疲労感が全身にあふれた。

M蔵はテントに向かつて歩きだしていた。S太とよっちゃんはM蔵のトレース

をたどって進む。足が鉛の靴をはいているように重い。雪面に照り返すつよい陽

ざしは、寝不足と疲労で頭がマヒしたよっちゃんを眠りへ誘う。ときどきバランスを失って倒れそうになる。いつそのこ

と、雪の上に倒れてそのまま眠ってしまった。雪の上には倒れてそのまま眠ってしまった。雪の上には倒れてそのまま眠ってしまった。雪の上には倒れてそのまま眠ってしまった。

視界をさえぎっていた小さな起伏の間から赤いテントが顔を出した。S太が口元をゆるめて「あつ、あつ」とつぶやいた。

よるめきながら、ようやくテントにたどり着いた。まず水だ。ストープで雪を溶かして水をつくり、乾ききった体に思う存分の水をそそぎこむ。そのあとラーメンをつくったが、衰弱しきった胃袋は少ししか受けつけなかった。寝袋にもぐると、三人はすぐに眠りに落ちた。

トムラウシに登ることはあきらめ、明日は休養である。残すは北海道最高峰の旭岳のみだ。旭岳を下れば、温泉がまつている。山で痛めつけられた体を湯につけて、芯まで温まりたい、銀しやりを腹

いっぱい食べたい、温泉の湯けむりがよっちゃんの頭のなかをめぐる。翌日は朝から風がよよく、一日中地吹雪のような状態がつづいた。次の日は天候がさらに悪化したために、行動できない。低気圧が台風なみに発達して、北海道全土に大雪をもたらしているというニュースが流れる。交通機関がマヒ状態に陥っているらしい。

シユラフに入っても寒い。あまり寒いので、生のニンニクを焼いて食べる。体が少しホカホカしてきた。毎晩食べるペミカンにも大量のニンニクが入っている。三人とも体中から強烈な臭いを発していることだろう。だれに迷惑をかけるわけではない。もってきたニンニクをぜんぶ食べた。

夜になって、風が強くなり、猛吹雪となる。テントが吹き飛ばされるんじゃないかと思われるほどの吹雪だ。もしあるときテントを発見できなければ、この風雪の中でピバークしなればならない。はたしてあの疲労困憊した状態で、猛吹雪をしのげるだけの雪洞をつくることのできただろうか。生存より疲労凍死する確率のほうがはるかに高かったことはまちがいない。

テントを発見できたのも、テントが吹き飛ばされなかったのも、よっちゃんには、幸運に恵まれていたからだという気がする。それは、火の神がよっちゃんの

願いを、大雪山に住み給う神々に届けてくれたからだろう。大雪山はアイヌ語で「カムイ・ミンタラ、神々の遊ぶ庭なのだ。三人が生きてのびることができたのは、五色ヶ原に遊ぶ神々のはからいだったの

だろう。火の神にお願いして、大雪の力ムイに感謝の意を伝えてもらい、一献を捧げねばなるまい。

願いを、大雪山に住み給う神々に届けてくれたからだろう。大雪山はアイヌ語で「カムイ・ミンタラ、神々の遊ぶ庭なのだ。三人が生きてのびることができたのは、五色ヶ原に遊ぶ神々のはからいだったの

だろう。火の神にお願いして、大雪の力ムイに感謝の意を伝えてもらい、一献を捧げねばなるまい。

夜半に吹雪はやみ、快晴の朝を迎えた。あと二日で春山合宿は終了する。きようは白雲岳手前のカールに泊まり、あしたは旭岳に登って湧駒別温泉に下山する。

十勝三俣から入山して十一日目、下山の日がやってきた。ガスがかかって視界は悪いが、風は弱く穏やかだ。みなどこかちがう。心が弾んでいるようだ。よっちゃんの足取りは軽やかだ。入山時には五〇キロを超えた荷物も、四〇キロを切った。旭岳を目ざしてぐんぐん登っている。

そろそろ旭岳のピークだろうと思われ、あたりで、ガスのなかから人影があらわれた。六十すぎと見られる老人がひとり、すれ違いざまに簡単な挨拶をして、通りすぎていった。冬山登山の服装ではなく、ジャンパーをおっただけの軽装である。小さなザックを担いでいた。三人は立ち止まり、ガスのなかに消えてゆく老人の姿を見つめていた。姿を消した方向を呆然とながめながら「あの人はど

こへ行くんやろなあ」、「あんな格好じや、生きられんで」とだれかがつぶやいた。

よっちゃんは姨捨伝承と補陀落渡海の話の思い出した。姨捨は年老いた老母を山に捨てるといふ棄老伝承であり、補陀落渡海は、観音浄土である補陀落（ポータラカ）を目ざして海に船を放す儀式である。観音浄土に行く人が一カ月分の食糧とともに船に乗り、南に向けて海に出るのだ。一種の自死である。

老人は覚悟を決めて山に入ったのだろう。追いかけて思いとどまらせようと思えばよかったのだろうか。老人の姿がよっちゃんの脳裏に張りついたまま、容易に離れなかった。後日、その老人は遺体で発見された。

がむしやりに登ってピークにたどり着いた。ガスに包まれて景色が望めない。休まずに一目散に温泉を目ざして下る。しばらく下ると、ガスが消えた。スキーを履いて斜面をおりはじめたが、よっちゃんはなれないスキーをもてあまし、前のめりに大きなザックを担いだまま転ぶ。まさしく七転八倒、いやというほど転び、やつとの思いでスキー場までたどり着いた。派手な服装のスキーヤーが気持ちよさそうに滑降している。こ

こはもう下界だ。

湧駒別温泉までもう少し歩かねばならない。

釣りいろいろ⑤

いか(烏賊)②

周防春日丸

十何年振りかのイカ釣りに出かけてみました。感覚は忘れずちゃんと覚えていました。

釣ったのは「甲いか」。いかには体長わずか二十五センチのヒメイカから十五メートル以上もあるダイオウイカまで種類は様々であるが、石灰質の甲をもつ「コウイカ目」と、甲が薄く木の葉状またはひも状の軟甲をもつ「ツツイカ目」に分けられる。

いかは貝類と同じ軟体動物で貝殻を甲といい、舟形の石灰質の甲をもつことから「甲いか」と呼ばれ、甲に鋭い刺があることから「はりいか」、墨袋が大きいことから「すみいか」とも呼ばれる。島では甲を「しようほね」といい、「こぶいか」と呼ぶ人もいる。

この甲は多孔質で軽く、フロートの役目をしている。「烏賊の甲より年の功」と言う通り、いかの甲は何の役にもたたないのである。「甲いか」にとつては甲が浮袋がわりになるので、ゆつたり泳ぐために筋肉が発達せずにも身も厚く柔らかいのである。

いかの足は十本でそのうち八本は短く、触腕と呼ばれる残りの二本は身

◇魚あれこれ◇

長ほどの長さがあり、先の部分だけにある吸盤を使って獲物を捕らえるのである。タコの吸盤と違っていかの吸盤は指でしごとポロポロ取れるのである。

いかにはタウリンが豊富に含まれているため、肝臓の解毒作用の促進、コレステロールの低下、疲労回復、神経の興奮抑制などの効果もある。

その昔、いか墨は染料、インクとしても利用されていたという。またがん細胞の増殖を防ぐ成分が含まれていることが発見されているとか。

いかの産卵は春から初夏で、沿岸浅瀬の海藻や汎木、転石などに産み分けられる。島では四月下旬頃から「いかす漁」が始まる。この漁は、半球状のかこの入り口の両側に束ねたイヌツゲをくくり付け海に沈めておき、このイヌツゲに産卵する「甲いか」を漁獲するのである。ツゲ以外のもの



も使ってみたが、においがするの

か一番良いと聞いている。いかの卵を目当てに他の魚(オコゼ・ハモ・メイボ・ガフクメバルなど)が入っていることも楽しみのようである。

体の両側のヒレを馬具の障泥(あおり)に見立てたアオリイカは芭蕉の葉に似ていることから「ばしゅういか」、泳いでいるときの透明な体色から「みずいか」、藻に産卵することから「もいか」とも呼ばれ、

いか類の中でも大きくて最も美味しいとされている。それなのに、どうしても釣ることができないのである。

俳句

北田隆子さんの句

蝉しぐれ夜勤の夫(つま)のいま帰る

毎日俳壇受賞句

百僧の声明籠る白障子

高野山にて

大門を潜り綿虫身に纏う

高野山にて

ス乗り場

9時集合、バス代約千円

単伝庵・八幡神社

編集後記

元旦の雑煮振る舞いも楽しく出来ました。《山猿の介護日誌》は紙面の都合により次号に掲載します。

◆『クイズ』の答え。正解は、イ

聖徳太子(五七四〜六二二)は、用明天皇(三十一代天皇)の皇子であるから、用明天皇の父である欽明天皇(二十九代)が祖父に当たる。アは誤りである。継体天皇(二十六代)は、欽明天皇の父であるから、結局、聖徳太子の曾祖父に当たる訳である。イが正しい。

継体天皇(四四九〜五三二)が君臨した時代は、大和政権が全国統一を成し遂げつつあった時期に当たる。継体天皇の業績は、百済の文化、百済を通して中国南朝の黄金時代の文化、それを大々的に導入したことであろう。

天皇崩御後に仏教が百済から伝来し、やがて、聖徳太子(五七四〜六二二)が、推古天皇(三十三代、五五〇〜六二八、用明天皇の妹)の摂政として登場することによって、古代日本は大きく様変わりしていった。そして、律令国家への道を歩んでいくのである。

古代の政(政治)や宗教の形をとどめる最後の時代の大王が、今城塚古墳に祀られている継体天皇なのであったといつてよい。

高槻市では、豊かな歴史遺産を活かすべく、史跡今城塚古墳を整備し公園化し、広く内外へアピールしていかうと努力している。

(福嶋 努)